第３回　東京都感染症対策連絡会議

令和５年７月 13 日（木）　午後３時 00 分
東京都庁第一本庁舎 33 階　N6 会議室

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】

それでは定刻になりましたので、ただいまから第 3 回東京都感染症対策連絡会議を開催いたします。

私は本日の進行を務めさせていただきます、保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長の内藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はお忙しいところ連絡会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

出席者のご紹介につきましては、お手元に配布させていただきました、出席者名簿で代えさせていただきます。

また、本日は感染症の専門家の先生方にお越しいただいておりますので、ご紹介をいたします。

感染症医療体制戦略ボードのメンバーでおられます、猪口先生でございます。

医療体制戦略監の上田先生でございます。

東京 iCDC 所長の賀来先生でございます。

また、東京 iCDC からはリスクコミュニケーションチームのリーダーの奈良先生にウェブでご出席をいただいております。

それでは議事に先立ちまして、座長の黒沼副知事からご挨拶をいただきます。

【黒沼副知事】

副知事の黒沼でございます。会議の冒頭に一言申し上げます。

5 類移行後初の本格的な夏を迎えることになります。夏休み、帰省や旅行など計画をされている方も多いかと存じます。

一方で、引き続き新型コロナウイルス感染症の動向やその他の感染症の流行にも注意が必要な状況となっております。本日は新型コロナウイルスのモニタリング分析の他、ヘルパンギーナや梅毒等の状況、これらを踏まえたこの夏の都の対応について報告があります。

また、ウェブでご参加いただいております、東京 iCDC の奈良先生からは、都内在住外国人向けのアンケート結果についてご報告いただく予定でございます。

その他専門家の先生といたしまして、今ご紹介ございましたが、感染症医療体制戦略ボードの猪口先生、医療体制戦略監の上田先生、東京 iCDC 所長の賀来先生にもお忙しい中、ご参加いただいております。ありがとうございます。

本日は、7 月 1 日付で福祉保健局を再編いたしまして、福祉局と保健医療局の二局が設置

されました。これ以降、初の連絡会議となります。
　引き続き都民の命を守るため、両局が連携をしまして、機動的かつ的確に対応するとともに、関係機関とも適切に連携をし、専門家の皆様のご知見をいただきながら、感染症全般への対策を適時適切に進めてまいります。私からは以上です。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
　ありがとうございました。
　それでは次に、最新のモニタリング分析につきまして、専門家の先生方からご説明をいただければと思います。
　まず、猪口先生、どうぞよろしくお願いいたします。

【猪口先生】
　ではスライドお願いします。今日は大曲先生がいらっしゃいませんので、感染動向は私の方からお話をします。
　まず①-1、定点医療機関当たりの患者報告数です。第 27 週 7 月 3 日から 7 月 9 日ですけれども、定点医療機関当たりの患者報告数は前週の 6.85 人から今週は 7.58 人に引き続き緩やかに増加しております。
　5 類移行前、第 18 週なんですけれども、その時は一定点当たり 1.41 人ですね。比較して約 5 倍となっております。今後の動向に十分注意が必要な状況であります。
　①-2 です。60 歳以上の定点医療機関当たりの患者報告数です。60 歳以上の患者報告数は前週の定点当たり 1.02 人から今週は 1.09 人になっております。
　夏休みなどで人の往来が増える時期であるため、高齢者と接触する場合は状況に応じてマスクを着用するなど、基本的な感染防止対策を心がけ、高齢者への感染の機会を減らしていくことが重要であります。
　なお、重症化リスクの高い高齢者等に向けて、令和 5 年春開始接種が終了するまでにワクチン接種をさせることが望ましいとしています。
　①-3、定点医療機関当たりの年代別患者報告数です。年代別報告数は 70 代除く各年代で前週より増加しております。
　①-4 です。定点医療機関当たりの患者報告数ですが、保健所別に見ると、31 地区中 22 地区で前週より増加しております。
　では、②の＃7119 における発熱相談件数です。発熱相談件数は前週の 111.6 件から今週 122.9 件と増加いたしました。今後の推移に注意する必要があります。東京都新型コロナ相談センターの相談件数は前週の 1 日当たり 745 件から今週は 1 日あたり 782 件となっております。
　続きまして、医療提供体制の負荷についてであります。
　救急医療の東京ルールの適用件数。これは今スライドに出ているところですけれども、救

急医療の東京での適用件数は前週の 102.7 件から今週は 109.3 件とコロナ流行前と比べて高い水準で横ばいとなっております。救急出動件数は 6 月末の時点で過去最多だった昨年同時期を超えるペースとなっております。

東京消防庁では、令和 5 年 7 月 1 日から出動率が一定値を超えた時に、救急車の適時適切な利用を呼びかけるため、救急車ひっ迫アラートの運用を開始するとともに、緊急性の高い傷病者を優先して対応できるようにするために、重症対応救急小隊を編成しております。

7 月 10 日には救急出動件数が 3,012 件。これは令和 4 年の 1 日平均が 2,389 件でしたから、かなり高い数字なのですけれども、3,012 件と多くなっており、都民に対して救急車を呼ぶか迷った時には＃7119 が利用できることを周知するなど、引き続き救急車の適時適切な利用を呼びかける必要があるとしております。

④入院患者数です。入院患者数は前週の 1,089 人から今週は 1,176 人。横ばいで推移しておりますけれども、僅かに、徐々に上がってきています。入院医療提供体制への大きな負荷は見られませんが、今夏の感染拡大に備え、高齢者等のハイリスク層を守る医療提供体制の確保が必要であります。

小児科ではヘルパンギーナ、RS ウイルス等の受診者が増加しております。受診を迷った場合は、東京都新型コロナ相談センター、＃7119、小児救急相談＃8000 に相談できることを都民に周知する必要があります。

周囲の状況等に応じて、換気、手洗い、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策を今後も心がけることが望ましいと考えます。私の方からは以上です。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】

猪口先生、ありがとうございます。続きまして賀来先生、いかがでしょうか。よろしくお願いいたします。

【賀来先生】

私から変異株について報告をさせていただきます。スライドお願いします。

こちらのスライドは、ゲノム解析結果の推移について、直近 6 週間の動きを示したものです。世界で主流となっている XBB 系統は、都内でも引き続き主流となっており、6 月 19 日から 6 月 25 日までの週では全体の 93.0%を占めております。

XBB 系統の系統別では、6 月 12 日から 6 月 18 日までの週と、6 月 19 日から 25 日までの週を割合の高い順で比較しますと XBB.1.16 系統が 32.3%から 12.3%減って 20.0%、XBB.1.9.2 系統が 11.3%から 8.7%増えて 20.0%、XBB.2.3 系統が 8.9%から 9.1%増えて 18.0%、XBB.1.5 系統が 12.9%から 1.1%増えて 14.0%、XBB.1.9.1 系統が 21.8%から 10.8%減って 11.0%、その他の XBB 系統は 5.6%から 4.4%増えて 10.0%となっております。

この変異株の動向につきましては、今後の感染動向にも影響を与えるということがありますので、東京 iCDC では引き続きゲノム解析により変異株の動向を監視してまいりたい

と思います。私からの報告は以上でございます。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
　賀来先生、どうもありがとうございました。次にヘルパンギーナ、梅毒等の状況及び都の対応について、保健医療局　西塚感染症対策調整担当部長よりご説明いたします。

【保健医療局　西塚感染症対策調整担当部長】
　それでは資料２を使いましてご説明いたします。コロナ以外にも注意が必要な感染症につきまして、私の方からご説明いたします。
　まずはじめに、ヘルパンギーナと RS ウイルス感染症の状況でございます。
　上段１ページ目のヘルパンギーナでございますが、こちらの流行は高止まりしつつありますが、第 27 週 8.00 人ということで、引き続き警報レベルを上回っております。
　下段の RS ウイルス感染症でございます。こちらは 27 週で 2.70 人となっております。ほぼ横ばいとなっております。近年、流行が二峰性になったり、長時間持続する傾向があるとされておりますので、引き続き監視してまいります。
　続いて２ページ目を開いてください。麻しん・風しんについてです。5 月 18 日の第一回会議でもご報告いたしました。
　上段、麻しんでございます。都内で３年ぶりに街の報告、今年発生がございました。
　また、下段の風しんにつきましても、海外からの輸入例合わせて数年に一度大きな流行があり、近年でも散発しているということで警戒が必要となっております。
　次３ページ目を開いてください。麻しん・風しんの MR ワクチン接種状況でございます。都内のワクチン接種状況でございます。麻しん・風しんを防ぐには 2 回の接種が必要とされ、集団免疫に必要な接種率はともに 95%とされています。
　第１期、青い折れ線であります。令和３年度に 93.9%に落ちたものの、令和４年度は 97.5%にまで回復いたしました。第２期は就学前の１年間、およそ５歳の年代になりますが、こちら令和４年度 92.1%となっており、令和以降最も低くなっております。特に第２期の MR ワクチンの接種率向上が求められるところでございます。
　４ページ目を開いてください。麻しん・風しん対策、夏の集中的な取組であります。麻しん・風しんが増えると言われる夏、また、接種率向上に向けた取組が効果を上げやすい夏でもあります。取組を強化してまいります。
　まず上の①であります。麻しん・風しん対策会議であります。ここ数年、年度末に開催しておりましたが、４年ぶりに夏、開催いたします。接種率が高い地域の好事例などを共有するほか、区市町村と一体となった広報・啓発を行ってまいります。
　②の啓発資材であります。今年は特に第２期の接種率向上を意識した内容としております。
　下段は風しんの追加対策です。今年 44 歳から 61 歳の男性については、これまで公的な

接種の機会がありません。2019 年から風しん第 5 期としまして、これらの男性にすべての区市町村で抗体検査、ワクチン接種を行っているところでございます。今年は地下鉄など交通駅の広告を活用し、広く訴えていきたいと思っております。また、Youtube で特定の年代の方を対象にしたターゲット広告も行ってまいります。

次 5 ページ目をお開きください。梅毒でございます。梅毒の発生状況でございますが、現在の報告制度が始まった 1999 年以降、過去最多だった昨年の梅毒報告数は 3,677 件ということですが、今年、左下のグラフですけれども、オレンジの同期比を見ていただきますと、昨年を上回るおよそ 1.1 倍のペースで、今年も梅毒の患者数の報告が増えております。

右のグラフでは性別で見ております。女性の患者の報告が急増している状況であります。

６ページ目をお開きください。梅毒対策の強化でございます。まずは検査の拡充です。

東京都が開設する二つの検査・相談室でございますが、①多摩地域検査・相談室では、多摩地域初となる日曜日検査を 8 月から開始いたします。

②新宿東口検査・相談室では、女性が利用しやすいレディースデーを設けて、9 月から翌 3 月まで月 1 回、即日検査を行ってまいります。

また、性感染症予防の普及啓発では、インターネット広告、マンガを活用した啓発など若者を意識し、効果的に啓発してまいります。

7 ページ目でございます。最後、ダニが媒介する感染症でありますが、ダニの中には野生動物にも吸血して病気を媒介する感染症がございます。重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、日本紅斑熱、つつが虫病は国内でも散見され、時に重症化いたします。先日、マダニが媒介したと疑われているオズウイルスによる死亡例が世界で初めて報告されたところでございます。

下段、マダニについてです。マダニは室内にいるイエダニやツメダニと異なりまして、野山の草むらに生息をしています。春から秋にかけて活動が活発になります。

８ページ目を開いてください。ダニが活発になるこの夏の対策でございます。

まず、国内感染事例はダニが媒介する感染症としては、先ほど申し上げた SFTS、日本紅斑熱、つつが虫病などについて感染、また死亡例が報告されています。都内でもつつが虫病が発生しているところでございます。10 件、20 件程度出ております。

近年は島しょだけでなく、多摩地域でも発生しており、東京都ではつつが虫病を始めとするこれら感染症の検査体制を確立しております。

最後に、ダニ媒介感染症の予防と対策です。

９ページですが、治療は特別なものは無く対症療法です。ダニがつかないよう山林に入る場合には、肌の露出を避けることが重要です。農作業やアウトドアの活動が増えるこの時期に、今一度ダニ対策についてのご確認をお願いします。東京都健康安全研究センターでは、右側に示したチラシを作成して都民へ注意喚起を行っております。ご説明は以上でございます。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
　次に新型コロナの感染状況を踏まえたこの夏の都の対応について、保健医療局　加藤感染症対策部長よりご説明いたします。

【保健医療局　加藤感染症対策部長】
　それでは資料３をもちまして、私からは新型コロナの感染状況等を踏まえた今夏の都の対応についてご報告いたします。
　１枚目のスライドです。まず都民への情報発信についてであります。
　現在、都内の新型コロナの患者報告数は引き続き緩やかに増加をしております。そのため、熱中症予防との両立に留意しながら、換気、手洗い、場面に応じたマスクの着用などが感染防止対策として有効でありますことを引き続き都民に周知してまいります。
　２枚目でございます。次に相談窓口についてであります。
　子供を中心に流行するヘルパンギーナ等の感染者が増加していることを踏まえまして、外来・救急への負荷を軽減いたしますため、ご覧の各種相談窓口を都民に周知してまいります。
　新型コロナ相談センターでは、発熱患者への医療機関の案内や自宅療養中の体調不安などの相談につきまして、毎日 24 時間対応しております。また、小児救急相談#8000 や#7119 についても周知を図ってまいります。
　３枚目でございます。次にワクチンの接種の促進についてであります。
　引き続き大規模接種会場の運営やワクチンバスの派遣等によりまして、高齢者や基礎疾患がある方などの接種を促進してまいります。
　大規模接種会場では、都庁北展望台と三楽病院の２会場で接種を実施してまいります。
　また、ハイリスク層が多く入所いたします高齢者施設等に対して、ワクチンバスの派遣を継続してまいります。なお、今月末までに約 98%の施設が接種完了となる見込みでございます。
　次に４枚目でございます。ハイリスク層を守る取組の強化でございます。
　まず、高齢者施設、障害者施設向け感染症対策ガイドブックについてであります。
　高齢者・障害者施設での感染対策では、ユニバーサル・マスクの励行や正しい手指消毒など標準予防策を徹底することが重要であります。そのため、施設の職員向けに平時から実践すべき対策や感染者発生時の対応につきまして、分かりやすく解説したガイドブックを作成いたしまして、本日から都のホームページに掲載をいたします。
　東京 iCDC の専門家の先生方からのご意見を参考にしながら、イラストや写真を多く使用し、実用性を重視した内容としております。各施設で本ガイドブックを活用いただくことで、感染症に対する対応力の向上を図ってまいります。
　５枚目でございます。次に感染症対策リーダー研修でございます。
　高齢者施設が感染症対策の訓練を主体的に実施できますよう、今月から看護師で構成さ

れる即応支援チームを派遣いたしまして、実践的な研修を行ってございます。
　次に、高齢者の療養に関する周知でございますが、医療機関の受診相談窓口や宿泊療養施設の申し込み方法など、療養に関する情報をまとめ、ケアマネージャーや地域包括支援センターを通じまして、周知を行ってまいります。
　次のスライドお願いします。次に、今夏の医療提供体制でございます。
　外来体制でございますが、現在発熱患者の診療を行っております、都内約 5,400 の外来対応医療機関を都のホームページで公表しております。その他の医療機関につきましても、順次、外来対応医療機関として登録・公表してまいります。
　入院体制でございますが、現在、約 3,100 の病床を確保しておりまして、通常医療の状況などに応じて柔軟に運用をしてございます。また、病院における介護人材確保など幅広い医療機関で患者を受けるための体制作りを促進しておりまして、9 月末時点で都内全 630 病院のうち 570 病院が受け入れることとしております。
　さらに、高齢者等のハイリスク層を守るため、八つの高齢者等医療支援型施設は全て運営を継続してまいります。
　最後のスライドでございます。最後に、今夏の感染拡大に備えた体制についてであります。今夏に感染が拡大した場合の備えといたしまして、医療機関等に対する支援を機動的に行うことができる体制を確保してございます。
　具体的には、お盆期間中の外来の医療提供体制及び調剤体制の確保、土日休日における小児診療体制の確保、入院患者の受け入れや転院促進などに向けた支援を行う体制でございます。
　今後の感染状況や外来入院のひっ迫状況等、総合的に勘案いたしました上で必要な取組を判断してまいります。私からは以上でございます。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
　次に都内在住外国人アンケート調査の結果につきまして、ウェブでご参加の東京 iCDC リスクコミュニケーションチームのリーダー、奈良先生よりご説明いただきたいと思います。奈良先生、どうぞよろしくお願いいたします。

【奈良先生】
　よろしくお願いいたします。では報告します。調査概要は、こちらのスライドのとおりです。
　都内在住外国人の国籍別の人口構成比率に合わせた割当抽出を行いました。有効回収票数は 2,000 であります。
　次お願いします。今回のアンケートの回答者の基本属性、こちらをご覧ください。なお、実際の都内在住外国人の構成比率と比べますと、今回の回答者は男性が多く、また、20 代・30 代が多くなっています。従って、アンケート結果を見る際には、この点を踏まえる必要

があります。

では、アンケートの結果です。次お願いします。

まず、ご自身の感染予防対策についてです。今年の 2 月時点でどうだったか、これを尋ねました。結果、いずれの項目においても、外国人の皆さんも高い割合で対策を実施していたということが分かりました。マスク着用は 8 割。また、換気の実施も 65%と良好です。

次お願いします。続けて、では今後はどうしますか？と聞きました。全ての対策項目について約半数が今後も続けると回答しておられます。

次お願いします。次に、これまで行われてきた新型コロナの感染予防対策についてどう感じているかを尋ねました。その結果、すべての項目において「適切だった」とする割合が最も高くなっていました。

次お願いします。さて、ここからは情報関連の項目についてです。

まず、新型コロナの情報源についてです。このグラフには、比較のために今年 2 月に実施した都民 1 万人アンケートの結果を並べて示しています。在住外国人の情報源としてはテレビ、これが一番 35%と多くなっています。都民調査と比較するとかなり少なくなっています。

次の項目、「行政や専門機関・専門家のサイト」これは約 25%と都民と同程度となっています。

一方、その下の、家族・知人との通話やメール、個人ユーザーや家族・知人の SNS とする回答は約 2 割で、都民より高くなっています。

次お願いします。こちらは在住外国人の皆さんがコロナに関する情報収集の際に使う言語です。母語が一番多く、日本語、優しい日本語もかなり見られています。

次お願いします。こちらは外国語対応の仕組みを使って、都の支援制度などを利用した経験について尋ねたものです。多かったものとしては、都庁展望室のワクチン接種、無料検査キット配布、コールセンターが 3 割となっています。

次お願いします。次に新型コロナの情報入手での困りごとについて尋ねました。上の段のグラフから約 3 割の方が困った事があるということが分かります。下のグラフにはその内容を示しています。情報が刻々と変化するため、ついていけないという回答が最も多くなっています。

次お願いします。上の段のグラフをご覧ください。自身がコロナに感染した疑いがあり、検査・診察・治療の必要があったかを尋ねました。その結果、約 45%があると回答しておられます。

更に、その時に困ったことは何かを聞きました。下のグラフです。「病院の受付でうまく話せなかった」が 4 割。また、医療保険制度について、行くべき病院について、病院での手続きについて分からなかったという答えがそれぞれ 3 割見られました。

次お願いします。こちらのスライド、上のグラフは、公的機関が発信する情報の入手の際の困りごとを尋ねた結果です。「多言語での情報発信が少ない」、「やさしい日本語での情報

発信が少ない」、が 3 割程度とやはり言葉に関する困りごとの割合が高くなっています。

対処法としては下のグラフをご覧ください。「日本語のできる家族・親族・友人・知人に聞いた」これが約 65%と最も多くなっています。

では次お願いします。次は偏見や差別についてです。新型コロナに関連して偏見や差別を受けた経験がありますか？と尋ねました。その結果、約 3 割があると回答しました。

具体的には、下のグラフをご覧ください。「外国人は感染を広げていると悪者扱いされた」が最も多く、「冷たい視線を感じた」、「中傷された」、「日本人に避けられた」、「無視された」といったものもあります。

次お願いします。ここからは新型コロナ流行による生活面への影響について問うた結果です。まず、ネガティブな影響として「出入国制限のため帰国できなかった」などが約 5 割と上位に上がっています。

次お願いします。逆にポジティブな影響もありました。その上位は「テレワークができるようになった」といったオンライン活動に関するものとなっています。

次お願いします。ここからは行政によるコロナ対応に対する評価についての設問群となります。

まず、こちらのグラフ、実際にコロナに罹患した時に受けた行政支援に対する評価です。「ホテルでの宿泊療養」は約 7 割が、「自宅療養中の健康観察」については約 55%が良かったと回答しておられます。

次お願いします。こちらは、これまでの東京都のコロナ対策についての評価です。一番上の、「東京都の感染症対策全般」において良かったとする回答の割合は約 6 割となっています。多くの在住外国人の方が都の対応を高く評価している傾向が分かります。

次お願いします。新型コロナに関連して行政に望むことも尋ねました。その結果、支援事業の申請手続きに関すること、情報発信に関すること、また、テレワーク推進といった要望が見られました。

次お願いします。こちらのスライドは新型コロナに関する困りごとや対策について自由に書いていただいたものの抜粋です。時間の関係で説明は割愛します。また後でご覧ください。

次お願いします。それからこちらのスライドは、コロナ流行の体験・経験を通して仲間に伝えたいことは何ですか？と尋ねて、自由に書いてもらったものの抜粋です。こちらも説明を割愛します。どうぞご覧ください。

では最後にまとめます。次お願いします。この調査を通じて分かったことは次のとおりです。まず、在住外国人の方々も新型コロナの中で流行の中で感染防止対策を高い割合で実施しておられました。

そして新型コロナの感染予防対策について、多くの人が適切だったと回答しています。また、東京都の感染症対策全般や新型コロナ罹患時の支援策についても良かったと回答している方が多くなっています。

一方、医療を受けるにあたっての困難さなど、在住外国人が日本で生活する上での新型コロナ特有ではない課題も示唆されていました。

最後に、東京都に暮らす住民として在住外国人の皆さんも一緒にコロナ禍を乗り越えてきました。このことを踏まえ、今後も感染症対策を含め、施策を進める上で更なる共生のための視点が求められると考えます。私からは以上です。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】

奈良先生、ありがとうございました。

議事は以上となります。それでは本日お越しいただいております、専門家の先生方から全体を通じてコメントをいただければと思います。まず猪口先生、いかがでしょうか。

【猪口先生】

ありがとうございます。小児のですね、RS ウイルスとヘルパンギーナ等の流行のお話がありました。私の医師会、それから周りの医者、小児科の先生方にお聞きするとですね、確かに非常に混んではいるんですけれども、小児科の先生方が一生懸命、こう診ておられてですね。受診する時間はかかるかもしれませんけれども、必ず診るとおっしゃっておりますのでぜひ受診していただく。ただ、混んでいる状況は間違いないので、受診するにあたっては、#7119 だとか新型コロナ相談センターだとか#8000 だとかそういうところを利用していただいても結構かなと思います。

それから二つ目です。色んな報道で今、沖縄の感染がかなり増えてきているという話があると思いますけれども、東京はまだそういう段階に至っておりませんが、昨日、沖縄の先生と勉強会もありましたが、やっぱり外来受診のところで多少時間がかかっているということと、それから高齢者のクラスターが多く出ているようです。

その例を東京に振り返ってみますとですね、やっぱり高齢者・リスクの高い方たちをしっかり守っていくということが大事だと思います。今日もお話がありましたが、それを励行していただきたいと思います。

最後にですけれども、東京はまだ医療がそうひっ迫している時ではありません。3 年間ですね、東京がん検診等の通常医療が非常に滞っているというか、健診が進んでいない状況があります。今はまだひっ迫しておりませんので、この機会にですね、ぜひがん検診と、そういう普段の医療を今時間がある方はですね、受診していただきたいと思います。以上です。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】

猪口先生、ありがとうございました。続きまして上田先生、いかがでしょうか。

【上田先生】

新型コロナウイルス感染症の状況でありますが、先ほど猪口先生からもご説明されまし

たように、引き続き緩やかな増加傾向が続いており、今後の動向に十分な注意が必要です。
病院機構としましても、夏の感染拡大に備え、高齢者と医療支援型施設の運営を含め、高齢者等のハイリスク層を守る取り組みに尽力してまいります。
続きまして、先ほども猪口先生からお話がありましたけれども、子供を中心に流行するヘルパンギーナやRSウイルス等の感染の拡大についてです。
まず外来につきましては、都立病院機構の小児総合医療センターにおいても、様々な感染症の流行により、救急外来は例年の約 2 倍の受診患者数となっておりますが、積極的な受け入れを行っております。また、その他の都立病院の小児科外来におきましても同様の状況でありまして、受診者数はかなり多くなっておりますが、積極的な受け入れを行っている状況です。
続いて、入院につきましては、小児総合医療センターやその他の都立病院についてもRSウイルスやヒトメタニューモウイルス等による入院が多くを占めており、新型コロナ患者の入院は今のところ少ない状況です。
本日の公表のモニタリング分析において、東京ルールの適用件数は横ばいであったものの、100件を超える水準であり、特にここ数日は気温が高い日が続き、熱中症による救急搬送も増加しています。
外来の負荷を軽減するとともに、救急車を適時適切に利用していただくため、体調に不安がある時や救急車を呼ぶかどうか迷う時は、新型コロナ相談センターや#7119、#8000等の窓口をぜひご利用いただければと思います。
また、医療機関内では、ハイリスク層の患者の方も多く、マスクの着用が推奨されております。引き続き、医療機関を受診される際は、マスクの着用についてご理解、ご協力をお願いいたします。
今後も新型コロナを含む流行中の感染症の状況、救急医療の状況、医療提供体制の状況などを注視しながら、これからも適切な医療体制の確保に協力したいと思います。私からは以上です。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
上田先生、ありがとうございました。続いて賀来先生いかがでしょうか。

【賀来先生】
私の方からは総括的なコメントをさせていただきます。
本日は新型コロナウイルス感染症についてのモニタリング分析、ヘルパンギーナや RSウイルス等の感染症の状況、そしてこれらを踏まえた都のこの夏の対応についてご説明をいただきました。
先ほどからご報告がありますように、定点医療機関当たりの患者報告数は、引き続き緩やかに増加しています。

昨年は夏場にかけて感染が拡大していたことを踏まえますと、引き続き今後の動向には十分な注意が必要であると思います。

医療提供体制に関しましても、入院患者数は横ばいであり、医療提供体制への大きな負荷は見られない一方で、小児科では他の熱性疾患等の受診者も増加しているとのことです。

換気や手洗い等に加え、場面や状況に応じたマスクの着用など、一人一人が基本的な感染防止対策に取り組んでいただくとともに、適切な受診行動を心がけていただくことも重要かと考えます。

また、奈良先生からは都内在住外国人アンケートについてのご報告をいただきました。外国出身の方たちが東京で暮らす中で、何を感じ、どのように行動されてきたかについて2,000 人から回答をいただいた貴重な資料です。

アンケートからは、新型コロナウイルスの流行の中で多くの方が感染予防対策に取り組んでくださったことが分かりました。また、これからの取組に向けた多くのヒントが得られ、大変貴重なアンケート結果であります。

今後も東京に住む人々がお互いに協力して、感染症対策に取り組めるよう、ぜひ参考にしていただきたいと思います。

東京 iCDC は、今後も東京都が新型コロナウイルス感染症をはじめ、様々な感染症の対応を進めるためにあたり、専門家の立場から必要な分析や助言を行い、都の取組を支えてまいりたいと思います。私からは以上です。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】

賀来先生、ありがとうございました。

その他、委員の皆様からご発言ございますでしょうか。

では雲田保健医療局長よろしくお願いいたします。

【雲田保健医療局長】

保健医療局長の雲田でございます。まずは猪口先生、上田先生、賀来先生、奈良先生、どうもありがとうございました。

先ほど黒沼副知事から冒頭お話がございましたように、本日は 7 月 1 日付で、これまでの福祉保健局が福祉局と保健医療局に再編されて初めての連絡会議となります。

保健医療局といたしましては、保健政策、医療政策、健康安全施策、感染症対策等、都民の命と健康を守るため、これまで以上により高い専門性と機動性を発揮して取り組んでまいりますが、先程来、ご報告等ございましたように、高齢者・障害者といった、ハイリスク層を守る取組ですとか、あるいは子供を中心とするヘルパンギーナ等の感染症への対応など、福祉分野との連携は、これはもう欠かせません。引き続き福祉局と一緒になって取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
　ありがとうございます。では、佐藤福祉局長、よろしくお願いいたします。

【佐藤福祉局長】
　ただいまの雲田局長の話と重なりますけれども、先ほどですね、感染症対策部長からハイリスク層を守る取組を強化、あるいはヘルパンギーナの話がございました。
　本日はですね、子供・子育て支援部長、高齢者施策推進部長、それから障害者施策推進部長もこの会議のメンバーとして出席しておりますけれども、福祉局も保健医療局と一緒になってですね、これらに取り組んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
　ありがとうございます。その他ございますでしょうか？
　それでは今後とも関係者間でしっかり連携をして、感染症に適切に対応してまいりたいと思います。以上をもちまして、第 3 回東京都感染症対策連絡会議を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。